

平成4年8月31日

豊島区ゆかりの文化人とその小伝

『群像 豊島の文化人(前編)』刊行

豊島区制施行60周年を記念し、同区にゆかりの文化人の足跡をたどる『群像豊島の文化人』の前編が発刊された。収録されているのは、江戸川乱歩、船橋聖一、山手樹一郎、三角寛、宮本百合子、菊地寛らの文士をはじめ、鈴木三重吉、坪田譲治、秋田雨雀、山田耕作、草川信、深沢省三ら児童文芸雑誌『赤い鳥』を育んだ文学者、作曲家、画家など豊島区に住んだ文化人30人。同じく30人を収録する後編は近年中に発行予定。

B6判タテ組み、512頁、上製本(ケース付)、定価3500円(税込)。池袋の新栄堂書店、芳林堂書店などで発売中。発行は、池袋の月刊タウン誌『びい〜ゆ』を発行しているサンライズ社(池袋2-18)。著者は、同社の高瀬西帆(たかせ せいはん)さん(57歳)。

高瀬さんは、1982年に『びい〜ゆ』を創刊。以来、日に日に変化する池袋の街を見続けながら、「豊島の文化とは何だろう?」と考えている中で、文壇の大御所・菊地寛や、探偵小説界の大御所・江戸川乱歩などの傑出した文化人らが住んでいたことを思い出し、『びい〜ゆ』89年1月号から自分で調べた著名人の小伝『池袋周辺に住んだ著名人』の連載を始めた。

当初は数人の文化人を紹介して連載を終えるつもりだったが、読者からの反響が大きく、高瀬さん自信もさらなる好奇心にかられ、いつの間にか長期の連載となり、現在も続けられている。

『びい〜ゆ』創刊10周年にあたる今年、高瀬さんは、これまで連載してきたものを一冊に書籍にまとめることを計画、この連載に大きな関心を示していた豊島区の後援を得て、今回刊行の運びとなった。

豊島区制施行60周年にちなみ、収録する文化人は前編・後編各30人の合計60人。後編は、『びい〜ゆ』紙上での連載が60人に達し次第刊行する予定。

詳細 高瀬 西帆さん